

9. 配慮項目の概要と配慮事項

配慮項目の概要と配慮事項は、表 9-1 に示すとおりである。

表 9-1 配慮項目

環境影響要素		環境影響要因		配慮事項
土 壌 汚 染	土壌汚染	工 事	・切土・盛土・発破・掘削等	<ul style="list-style-type: none"> ・土地履歴等の調査を行った結果、汚染が確認されなかったが、事業実施の際に、万が一汚染が確認された場合には、法令に基づいた適切な対応・対策を行う。 ・盛土に用いる土は、土壌汚染のない土の搬入に留意する。
植 物	森 林 等 の 環 境 保 全 機 能 (水田)	存 在	・改変後の地形	<ul style="list-style-type: none"> ・補助幹線道路や歩行者専用道路等の街路樹植栽及び歩道の透水性舗装を行うこと、沿道商業用地の駐車場舗装の透水性舗装を促すことで地下水涵養に配慮する。 ・公園内には、極力樹木等による植栽や芝生緑化を行う。 ・大規模宅地では、駐車場舗装面の一部緑化や芝生による地盤被覆の改善などを促していく。
文 化 財	指 定 文 化 財 等	存 在	・改変後の地形	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施に際しては、事前に「文化財保護法」に基づき仙台市教育委員会との協議を行い、適切な対応を図る。 ・造成整備後の建物建築にあたっての基礎工事において、新たな埋蔵文化財等が確認された場合は、「文化財保護法」に基づき、適正に対処する。
温 室 効 果 ガ ス 等	二酸化炭素	工 事	・重機の稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り排出ガス対策型重機の採用に努める。 ・重機等の使用に際しては点検・整備を十分に行う。 ・工事計画の策定にあたっては、重機等の集中稼働を行わないよう工事を平準化し、計画的かつ効率的に作業を行う。
	熱帯材使用	工 事	・建築物等の建築	<ul style="list-style-type: none"> ・熱帯材を原料とする型枠は極力使用を控える。 ・型枠はできるだけ非木質のものを採用し、造成整備後の建物建築にあたっての基礎工事においては計画的に型枠の転用をするよう建築業者に指示する。